

留学体験レポート（中国）

国際文化学科 2年

21015105 廣田夏帆

私は、2016年8月29日から2017年1月7日までの約4か月、中国の北京師範大学に留学してきました。

私にとって、海外に長期滞在するというのは初めての経験でした。留学をするにあたり、私は不安を感じていたことがありました。それは生活面、特に衛生面についてでした。水道水が硬水であるため飲むことができない、トイレットペーパーが備え付けられていない、火の通っていない食べ物は注意しなければならない、湯船がないなど、日本で生活しているときには意識しない生活習慣の中で健康を保てるかどうかがとても不安でした。

実際に留学してみると、生活に慣れるにつれて不安はあまり感じなくなりました。飲み水は、学内にあるコンビニやスーパーでミネラルウォーターが手軽に買えるので、誤って水道水を飲んでしまうことはありませんし、水を買いだめする必要もありませんでした。また、スーパーでは水以外にもティッシュなどのさまざまな消耗品・日用品が大学外の店よりも安く手に入り、食堂やお弁当屋さんなどで安くて美味しい料理を食べることが出来ました。2, 3週間もすると、行ったことのない店や食べ物に挑戦してみようという気持ちになれました。私はもともと辛い料理が好きだったので、中華料理の辛さは苦ではありませんでしたが、中国山椒を使った料理が多く、日本ではあまり食べたことがない辛味が味わえました。

北京での観光にはバスを使うことが多かったです。バスに乗れば、大概の有名な観光スポットへは行くことが出来ますが、不安であれば中国人の友達や同じクラスの留学生と一緒にいくといいと感じました。中国語に自信がなくても、一緒に観光したり買い物をしたりすることでコミュニケーションがとれ、相手との距離を縮めることができました。道が分からないことも、異文化交流のいいきっかけになってくれたと思います。

最も印象に残っている思い出は11月初旬に、修学旅行で河南省に行ったことです。北京以外で中国国内の都市に行けるということがとても貴重な体験でした。日本でも乗ったことのない寝台列車に乗り、劇場で伝統芸能を鑑賞し、河南省の小学生たちと触れ合い、5日間でさまざまな場所へ行きました。北京と比べて食事が美味しくなかったり、旅行の後半で行った博物館の展示内容が難しく退屈に感じてしまったりと、楽しくなさそうだと感じる場面もありました。他国の留学生とおしゃべりを楽しみながら過ごすことでとても充実していました。

私は、留学の目的を語学のためだけだと考えていましたが、語学だけにはとどまらない多くのことが得られたように思います。例えば、中国という国に対する見方です。“日本から見る中国”と、“中国から見る中国”は違います。中国とはどういう国なのか、自分の経験が自分なりの考え方を作ってくれるのだと感じました。“経験”や“勉強”など堅苦しいことを考えなくとも、とても充実したたくさんの思い出ができたので、留学してみて本当によかったと思っています。